

メジロ(2)



2008年1月30日の澄川の作業は快晴でしたが、このところの大雪で私がかって経験したことのない1℃はあろうかと思われる新深雪の中での作業でした。カンジキをつけていても雪の中に脚がのめり込んで、すこしの距離を移動するのに息が切れる状態なのです。前回1月24日は爆弾低気圧が通過している吹雪予報の中で、私は行かなかったのですが、7人(作業参加者で確認できます)も参加した人がいたことは特筆されます。この方々が駐車場の除雪作業をしてくれたお陰と、この日はさらに荒船さんが事前に除雪してくれたお陰と重なって基地のテントまわりの除雪だけで作業に入ることができました。足元が不安な中なので大木の処理は避けての除伐作業でした。

お昼には杉本さんの「ゴッコ汁」と湯沢さんの「ラクヨウきのこ汁」のダブル汁が用意されていて一同感謝感激。お代わり自由でも参加14人でしたが、全員満腹堪能しても食べきれませんでした。

荒船さんが小鳥の巣を見つけられました。ちょっと大きめのぐい飲みが小枝の間にぶら下がっているような形の巣でした。高さ3℃くらいの幹から直接出た枝の幹の近くに位置していたそうです。育雛床には獣毛や

綿毛のようなものが一切使用されていません。私としては初めて出あった小鳥の巣でした。

帰宅していろいろ調べまして、メジロの巣と断定いたします。この春この森でメジロが囀っていたことはこのシリーズの「メジロ」のページで報告しましたが、嬉しいではありませんか、繁殖もしてくれていたのです。写真をご覧ください。材料はイネ科目の草の繊維を細かく縦に裂いたようなものが大部分ですが、強度が必要な部分にわれわれが森で目印や囲いなどに使っているプラスチックテープが劣化した結果に出来る細かい縦裂きの部分を使っています。森のゴミも活用されていることに複雑な心境になりますが、美しい形と細かい芸に対しては驚嘆せざるを得ません。親や兄弟、知友に習うわけでもなく、遺伝子に組み込まれていることとはいえ、いまさらながら自然の芸術に恐れ入るばかりであります。こういう出会いがあるので森は楽しいのです。

2～3月中に巣箱の点検と修理・架け替えを行うつもりですが、これでまた、楽しみが大きくなりました。